

コルク化した薄い膜に被われ、柔組織内の細胞間隙中に嵌在し、ほとんどのものが長軸に平行で 140μ から 400μ に達し、 300μ 前後のものが最も多い。

終りに本研究に協力された山村悦子、名倉嘉子の両氏に感謝する。

Abbreviations:

cr. crystal; **cu.** cuticle; **cx.** cortex; **ep.** epidermis; **is.** intercellular space; **kl.** cork layer; **le.** leptome; **sp.** split; **sta.** starch grain; **ste.** stele; **v.** vessel; **vb.** vascular bundle.

Summary

The botanical origin of a crude drug "She Kan" was discussed on the descriptions appeared in the Chinese and Japanese herbals.

Formerly the anatomical study of "She Kan" derived from the rhizome of *Belamcanda chinensis* DC. was made. The detailed description of the microscopical structure was given.

○牧野標本館雑記 (2) (檜山庫三) Kōzō HIYAMA: Miscellany from Makino

Herbarium (2) フタエオシロイバナ。オシロイバナ (*Mirabilis Jalapa* L.) の苞が花冠状となって帯色したものが稀に栽培されていて、これを牧野先生はフタエオシロイバナ (var. *dichlamydomorpha* Makino) と称した。その産地については "Japah in Gardens (T. Makino! 1930)" とあるだけであるが、1930年9月25日に武州大泉の先生の庭から採集された2枚の標本があるから、これが命名の材料となったものと考えてもよからう (したがって、その中の1枚を lectotype と定める)。ところで久内清孝氏は1927年に東京大森で、この二重咲きに注目されており、牧野先生がこれを var. *concolor* Makino と仮称されている [久内, 植研 6: (358), 1929] から、これが命名材料の根元のように思える。しかし標本館には既に1914年に大隅で先生の採集された標本がある。

このフタエオシロイバナは形態学上興味ある存在であるが、今日では品種として取扱うのが至当であるから、下記のような組合せをつくることにした。

Mirabilis Jalapa L. forma **dichlamydomorpha** (Makino) Hiyama, **stat. nov.**—*Mirabilis Jalapa* var. *dichlamydomorpha* Makino in Journ. Jap. Bot. 7: 4 (1931). Nom. Jap. Futae-oshiroibana.

Hab. Hondo: Ōizumi, Prov. Musashi, cult. (T. Makino, 1930—lectotype in Makino Herbarium). Kiushiu: Prov. Ōsumi, cult. (T. Makino, 1914).

(東京都立大学牧野標本館)